

がくじ 学而

摂南大学図書館報

No.101 2020.3



日本島及び朝鮮半島図 コロネリ 1692年

17世紀初頭までの極東（とくに日本）の情報はイエズス会士の報告が唯一であったが、それらに当時の航海者達からの新知識も駆使して正確な地図製作を試みた。本図は1692年に刊行された「地図上の世界航海」の中の一図で、寛文期に刊行された“扶桑国之図”などを原図としたと考えられる。当時の日本独立図としては最も正確、詳細な地図であり、その素性の正しさを誇るべく、イエズス会のマークが地図上部に描かれている。

CONTENTS

本との対話のすすめ ―アクティブ・ラーナーとなるために―	3
学長 荻田 喜代一	
資料を残していくことの重要性と難しさ	4
経済学部 准教授 牧野 邦昭	
印象に残る“本との出会い”	6
法学部 教授 河原 匡見	
図書館学生サポーター活動・ビブリオバトル2019	
図書館学生サポーターが薦めるこの1冊	8
図書館利用統計	9
枚方分館ニュース	10
2019年度 図書館利用者アンケート結果	12
教員が選ぶ推薦図書	14
サービスの紹介	
～ Summon 「スマート Search」、Maruzen eBook Library ～	15
2019年度 摂大文化大賞・編集後記	16

表紙写真

「日本島及び朝鮮半島図」コロネリ 1692年
西洋古版日本関係地図コレクション (摂南大学図書館本館貴重図書室所蔵) より
コロネリ(Coronelli, Marco Vincenzo) 1650 - 1718 ヴェネツィアの修道士、地理学者

本との対話のすすめ

—アクティブ・ラーナーとなるために—

学長 萩田 喜代一

「図書館では学生が多くの本を読む工夫をしています。しかし、図書館に足を運ぶ学生が減少傾向にあります」。図書館長の言葉である。本を読まない人々が増えていることは今に始まったことではなく、近年の情報社会の中で本から情報を得る価値や意味が薄れているのかもしれない。また、いまの小中高生たちは受験勉強、課外活動、習い事などで多忙を極め、ゆっくと本を楽しむ時間が少なくなっているとも推察される。そのためなのか、日本語の正確な読解力やまとまった文章表現力が明らかに低下しているのも事実である。ここでは、教育者の立場で本を読む意味や価値を少し考えてみたい。

AI(人工知能)との戦い

AIとの戦いといっても知識や計算力の戦いではない。新井紀子氏(数学者、国立情報学研究所・社会共有知研究センター長)は、AI「東ロボくん」を東京大学の入学試験に合格させるプロジェクトを実行している。新井氏の著書「AI vs. 教科書を読めない子どもたち(東洋経済新報社)2018年」によると、東ロボくんはMARCH(明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学)への合格レベルには達したが、東京大学には未だ合格できていないという。その理由の一つに、AIはあくまでも高度な計算機で、意味をわかったようにみせかけているだけであり、「文章の意味が理解できない」という点を強調している。したがって、AIが肩代わりできない仕事をするためには、「読解力、常識、柔軟性、発想力が必要であり、さらに読解力を基盤としたコミュニケーション能力や理解力が重要である(要約)」とある。しかしながら、新井氏によると、国内の大学生数学基本調査では、数学がわからないのではなく、問題の読解力が不十分ではないかとの疑問が生まれたという。また、中高生の基礎的読解力調査でも、日本語読解力、グラフ解釈力の不足などによる理解力の低さが目立つとのことである。まさに、このままでは「AIが苦手とする仕事」のできる人材が少なくなるとの警鐘を鳴らしている。

アクティブ・ラーニングの必要性和アクティブ・ラーナーの養成

新井氏は「アクティブ・ラーニング(AL)は絵に描いた餅である」と言及している。教科書も読めない学生には、対話、ディスカッション、ディベート、地域でのPBL(Problem/Project-Based Learning)などでは深い学びはできず、課題解決力などがつくことがないとの内容である。確かに、形式だけのAL型授業は絵に描いた餅かもしれないが、ALとは『主体的、対話的で、深い学び』(図)であり、学生が教科書を含む本や情報ツールから主体的に(必要に駆られて)正確な情報を確実に獲得する授業ができれば、効果的なALとなる。ここでは、ALの手法として『対話的な学び』が最も重要であることを提唱したい。他者との対話を通したコミュニケーション力や知識獲得のモチベーションの向上、本との対話(内容を理解して、自身の考えとの相違やさらなる疑問を見出す)を通して知識の獲得や思考力・判断力・表現力の向上を実感できる。このように、本との対話的な学びが夢中にできる授業がデザインできれば、生涯にわたって主体的で深い学びを続ける『アクティブ・ラーナー』を養成することができると確信する。そのためにも、図書館の役割は大きく、図書館が対話的な学びの場となり、すべての教職員が『学びのファシリテーター』として学生の図書館活用を促進することを心から願ひ、本稿を終える。

「主体的な学び」

- 学ぶ意義・目的を明確にする(キャリアの方向性と効力感)
- 自分で学びを決める(自己決定)
- 指導者との関係性

夢中に学べる授業デザイン

「対話的な学び」

- 自己の考えを広げ・深めること(知識・考えのアウトプット)
- 書籍(本)との対話
- 他者(学生同士、教職員、社会人)との対話
- 問題・課題との対話

「深い学び」

- 疑問のないところに、理解はない
- 知識・技能を関連付ける
- 問題・課題を見つけ、その解決策を考える
- 思いや考えを基に創造する
- 仮説をたてる
- 疑問をもつ

資料を残していくことの重要性和難しさ

経済学部 准教授 牧野 邦昭

近年、資料の保存のあり方について話題になることが多い。資料が失われる理由はさまざまであるが、多くの場合一度資料が失われてしまえば復元することはできず、その資料が作成された背景にあった事実はどのようなものであったのかを明らかにすることができなくなる。例えば行政文書が失われてしまえば、行政が政策を進めていくにあたり意思決定が適切に行われたのかどうかを後から検証することはできない。そのため、多くの資料を整理し、保存して後世に伝えていくことが必要であることは言うまでもない。

一方、現時点において当事者が重要であると認識している資料が、時間が経っても、また当事者以外にとっても重要であると認識されるとは限らない。一方で当事者にとっては特に価値を見いだせず、失われてもあまり気にならない資料が、実は当事者以外にとって重要な価値があることもしばしばある。そこに資料を残していくことの難しさもある。

筆者は2013年以来、名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター資料室（以下、センター資料室）に所蔵されている「荒木光太郎（あらか みつたろう）文書」の整理・調査に関わっている。荒木光太郎文書は戦前に東京帝国大学経済学部教授を務めた経済学者の荒木光太郎（1894-1951）旧蔵の資料群である。東大教授だった荒木の資料群がなぜ名古屋大学にあって現在同大学で公開されているのかはそれ自体が一つの歴史である。詳しくは小堀聡「荒木光太郎文書解説（増補改訂版）」『荒木光太郎文書解説目録 増補改訂版』所収（<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/erc/collection/araki.pdf>）を読んでいただくことにして、ここではその要点だけを説明したい。

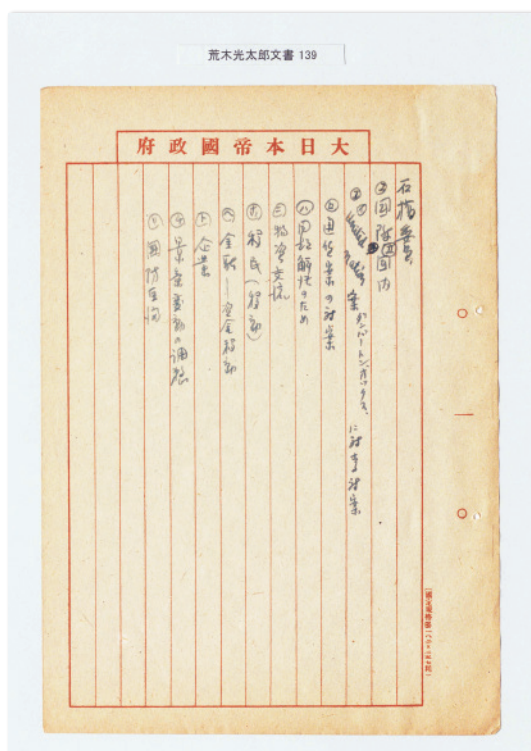
1951年の荒木光太郎の死後、その蔵書の大部分は近畿大学に有償譲渡され、現在では近畿大学中央図書館に所蔵されている。近畿大学が荒木の蔵書を購入したのは同大学における大学院設置に向けたものであったと推測されている。一方、書籍以外

の書類、パンフレット、原稿、メモなど、資産的価値があるとは当時考えられなかったものは、東大における荒木の門下生で当時名古屋大学経済学部助教授だった城島国弘（のち経済学部長、四日市大学学長）の仲介により名古屋大学に受け入れられた。その後パンフレット類は開架図書に配架されたものの、書類や原稿、メモなどは学術的にも価値のあるものとはみなされなかったようで、やがてその存在も忘れられ、50年以上放置された状態にあった。パンフレット類の配架時に、それらが荒木からの寄贈資料であることを記録しなかったことも、忘却の一因となっている。その間2000年9月には東海豪雨が発生してセンター資料室が当時使用していた地下書庫も一部が水没し、その後の復旧作業の際に一部の資料も廃棄された可能性がある。そして2009年からセンター資料室の資料整理が始まる中で荒木光太郎文書が「再発見」されることになった。

「再発見」された荒木光太郎文書には、荒木の多彩な活動を反映して大蔵省などの官公庁や調査研究機関の資料が多く含まれており、その中にはこれまで他で存在が確認されてこなかった資料も多く含まれている。例えば戦前において満鉄調査部や東亜研究所と並ぶ規模を誇ったシンクタンクである世界経済調査会の戦時期の資料はこれまでは断片的にしか見つかっていなかったが、荒木文書の調査により初めてまとまった量の資料の存在が確認された。

また、荒木は『東洋経済新報』主幹として活躍した石橋湛山の通貨・金融研究の協力者であり、1943年に湛山の主導で設立された金融学会（現・日本金融学会）においても中心となって活動している。湛山は太平洋戦争末期の1944年夏ごろから当時の大蔵大臣に「戦後」構想の研究を持ち掛け、同年11月から大蔵省内に「戦時経済特別調査室」が設置され「戦後」研究が進められた。戦時経済特別調査室の委員に湛山や荒木のほか、戦後に一橋大学学長となる中山伊知郎、東京大学総長となる大河内一男らの経済

学者が参加したこと、日本が敗戦により植民地を失った後のことを考えるべきだと湛山が主張したことはこれまでわかっていたが、その公的な資料はこれまで見つかっていなかった。荒本文書には戦時経済特別調査室の設置・運営にかかわる大蔵省の公的資料や同調査室での議論を荒木が記録したメモが残されており、同調査室の活動や議論の様子が明らかになった。荒木のメモによれば湛山は「Closed Economy 朝鮮、台湾を除いた本土だけの封鎖経済を考へる」という植民地が失われた場合の日本の研究のほか、「United Nation案 ダンバートン、オックス、に対する対案」「通貨案の対案」という国際経済秩序の研究を行うことを提案しており、連合国のブレトン・ウッズ協定や国際連合の基礎となったダンバートン・オックス提案への日本側の対案を作ろうとしていたことが判明した。



石橋湛山の提案について記した荒木のメモ(荒木光太郎文書139-6)

このほかにも荒本文書には、GHQ(連合国軍総司令部)のG2(参謀第二部)歴史課において荒木が服部卓四郎・有末精三・河辺虎四郎・杉田一次・大井篤ら旧陸海軍の軍人たちと編纂にかかわった太平洋戦争戦史(『マッカーサー元帥レポート』)の作成過程における資料や、東京帝国大学教授の金井延から

受け継がれたとみられる明治期の財政・金融に関する資料(税法整理案審査会・貨幣制度調査会の資料)などの多くの重要な資料があり、そうした資料を基にしつつ新たな研究が進められている。荒本文書が受け入れられた当時はあまり価値を見出されなかった資料群は、現在では日本近現代史研究における貴重な宝庫ともいえる存在である。

だが紙の資料は適切に保存しておかないと傷みやすい。荒本文書の中でも戦時期に作成された資料は劣化が著しく、また東海豪雨の際に水に濡れたと考えられる資料も存在する。一方で貴重な資料はできるだけ公開して多くの研究者に活用してもらうことも必要である。そこで荒本文書では大半の資料を写真撮影し、重要な資料についてはオンラインで公開しており(<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/erc/collection/araki.html>)、残りのものについては閲覧希望者にセンター資料室で電子化資料を利用してもらうという形で保存と活用の両立を図っている。このような電子化による資料の保存と活用の分離は全世界的に進められており、日本では国立国会図書館デジタルコレクション(<https://dl.ndl.go.jp/>)や国立公文書館アジア歴史資料センター(<https://www.jacar.go.jp/>)において電子化された資料を容易に閲覧できるようになりつつある。

このように資料を電子化し簡単に利用できるようにしていくことは重要であるが、それは電子化できる紙の資料が存在しているからこそ可能となる。それゆえ、紙の資料もできるだけ保存していくこと、現物での保存が難しい場合は電子ファイル化していくことが求められる。そして現在は多くの資料が電子媒体の中に最初から作成され保存されており、そうした資料を保存していくこと自体は容易になっていると考えられる。今の当事者にはあまり価値を見出せないような資料も、将来的に、あるいは他の人には重要なものとみなされるようになるかもしれないことを念頭に置きつつ、資料を何らかの形態でできるだけ多く後世に伝えていく努力が必要である。

印象に残る“本との出会い”

法学部 教授 河原 匡見

はじめに

このエッセーがみなさんの目に届くのが、春（4月頃）ということですので、その時期にふさわしい内容にしたいと思います。また、個人的なことで恐縮ですが、私もあと1年で還暦という、いわゆる“アラ還”になったということもあり、これまでを回顧する内容にしたいと思いました。

私たちの社会では、春に新しい年度が始まることで多く、そこで新たな出会いに恵まれることも多くなります。そして本誌が図書館報であることを考えると、『本との出会い』がふさわしいテーマではないかと考えました。そこで、私にとってこれまでの人生で、強く印象に残っているものについて述べたいと思いますが、真っ先に思い浮かんだのが、次の2冊についてでした。

研究の方向性を気づかせてくれた本との出会い

ひとつは、『サンフランシスコ講和への道』（中央公論社、1984年）という本との出会いです。この本は、長きにわたって一橋大学で国際関係論講座を担当され、日本の国際関係学の発展を牽引されてきた細谷千博氏が発表したものです。

当時、私は大学院の博士前期（修士）課程に在学中で、修士論文のテーマの選定に苦慮していました。占領期における日本と諸外国との関係に関心をもっており、その分野で論文を書き上げたいと考えていましたが、具体的に何を対象とすべきかテーマが見つからず、あれやこれやと文献資料を読んで模索を続けていました。

占領期というのは、日本が第二次大戦で敗戦した後、一時的にアメリカを中心とする連合国軍によって占領・管理され、その下で改革が推し進められた時期のことです。1970年代後半頃からアメリカ側の占領期関連の資料やあるいは占領軍がアメリカに持ち帰った日本政府の資料などが公開され始め、この時代の研究への関心が高まっていました。

そのブームに影響されたわけですが、主要な分野の研究はすでに先行する研究者の手によって進められており、私としては多分に“乗り遅れ”感が強く、オリジナリティのあるテーマを見つけ出せずにいました。そんなときに、同じ専攻分野で博士後期課程に在籍していた先輩から「こんな本が出たよ」と紹介されたのでした。

敗戦した日本と戦勝した連合国との講和については、実際の戦争がほぼ日米間で決着がついたことから、勝者の権利としてアメリカがその主導権を独占的に握り、その内容の策定を推し進めてきたと考えられていました。

しかしこの本では、アメリカ以外の連合国も、自国の太平洋地域の利益を保持すべく、積極的にその過程に関わろうとしていたことが、外交文書をはじめとする一次資料を丹念に分析して明らかにされていました。表層からは見えないサイドアクターによる別のドラマが展開されていたことを解き明かしたものでした。この本は、内容の学問的価値が高く評価されて、その年の毎日出版文化賞（毎日新聞社）にも選ばれました。

私はこの本から大きな刺激を受けて、懸案だった論文のテーマを見つけることができました。アメリカ中心に展開された対日占領政策において、かつてイギリスの植民地であったオーストラリアが、活動の制約があったものの、特定の分野において中心的な役割をはたしていたことを、当時の国際情勢と絡めながら分析しました。

この本との出会いにより、一次資料の分析を丹念に続けることと、脇役の動きまで視野を広げて分析することの面白さと大切さを学んだと思います。そしてそれは、その後の私の研究の方向性にも大きな影響を与えることになりました。

新しい見る目に気づかせてくれた本との出会い

もうひとつが、『木に学べ 法隆寺・薬師寺の美』

(小学館、1988年)という本との出会いです。この本は、法隆寺の宮大工の棟梁であった西岡常一氏へのインタビュー記事をまとめて出版されたものでした。宮大工というのは、神社やお寺の建築や補修に携わる大工職人のことです。西岡氏は代々法隆寺の宮大工をつとめる家系に生まれ、法隆寺のみならず薬師寺の再建においても棟梁をつとめた人で、後に文化功労者にも選ばれた人です。

この本と出会ったのは、修士修了後に就職した自動車メーカーのシンクタンクを2年で退職し、別の大学院の博士後期課程に入学して間もない頃でした。実家に帰省したときに、工学研究者の兄から「文系の人にもわかりやすく面白い内容だから読んでみるといい」と薦められたのでした。

当時私は、前職で企業の経営戦略の判断に必要な資料の分析や作成を行う仕事をして毎日を過ごしてきましたが、そんな日常の中で、「技術は日々の研究開発努力によって進歩しており、新しい技術ほどより優れているのはあたりまえ」と考えるようになっていました。

しかしこの本は、私のそんな思い込みの修正を迫る内容でした。西岡氏は少し毒のあるしかし平易な口調で、いにしえから受け継がれてきた知恵や技術が現代でも十分に通用していることを、素人である私にもわかりやすく紹介していました。また、宮大工の知恵や技術についての話だけでなく、宮大工たちをまとめ上げて大きな事業を進める棟梁ならではの心構えなども語られていました。私はこの本に鮮烈な印象を受けるとともに、読む人の専攻あるいは立場によってさまざまな刺激を感得できるそんな本だと思いました。

専門分野ではないのですが、この本は私に新しい“見る目”を気づかせてくれたような気がしています。ですから、今でも「いっぺん読んでみたら」と他の人に薦めたくなる本の一つです。

おわりに

振り返ってみれば、強く印象に残る本との出会いは、どちらの場合も、私の事情を知る身近な人からの紹介によるものでした。そして、どこか迷う気持ち

があったり不安な気持ちがあったりした学生時代のことでした。

みなさんも、これからの大学生活でいろんな人と出会い交流していく中で、本との出会いもまた訪れるのではないかと思います。それはゼミ担当あるいは講義や実習担当の先生、図書館などの職員の方々からのアドバイスによるものかもしれません。あるいは、部活やサークルの仲間、バイト先の知人等々との情報交換によるものかもしれません。すでに本との出会いに恵まれていると自覚している人いるでしょうが、さらに新たな出会いが待っていることを期待できると思います。

また、誰かが紹介してくれるのを待っているだけではなく、自ら本との出会いを求める積極性も欲しいところです。せっかく学生として、大学図書館を思う存分利用できる立場にあるのですから、それを何も利用せず放っておくのは実にモッタイナイことだと思います。

幸い本学の図書館には、総合大学ゆえに文系理系のさまざまな年代の本が集められており、しかもそのほとんどが開架され手に取って閲覧することが可能です。講義の空き時間などに、図書館内を静かに巡ってみませんか。それぞれの書架にどんな本があるのかひとつひとつ眺めながら歩いてみませんか。ひょっとしたら本の方から「読んで!」と呼びかけられるかもしれません。

書架を散策するのは、学生に与えられた優雅で素敵なことではないでしょうか。ぜひ、図書館(ライブラリー)を“ぶらり”してみてください。

図書館学生サポーター活動

図書館では、本や読書が好きな学生諸君が集まり、「図書館学生サポーター」として活動しています。主な活動は、知的書評対戦「ビブリオバトル」、テーマを決めて本を持ち寄り語りあう「マイ・フェイバリット・ブックス」の開催などです。また、図書館企画や運営について、学生目線での意見を提供してくれる彼らは、図書館における良きアドバイザーでもあります。このページはそんな彼らからの情報や寄稿を中心に構成しています。

●全国大学ビブリオバトル2019

	日 時	時 間	場 所	発表者	参加者数	備 考
地区予選会	11月7日 (木)	16:40~ 17:40	摂大図書館 ラーニング・コモンズ	5名	17名	全国大学ビブリオバトル2019 地区予選会
関西 Gブロック 地区決戦	11月30日 (土)	13:00~ 15:00	大阪成蹊大学 グローバルホール	11名 (うち大阪成蹊 大学学生9名)	約150名	全国大学ビブリオバトル2019地区決戦 (2グループに分け、2回戦方式。 本学バトル開催も1回戦敗退。)

●マイ・フェイバリット・ブックス

	日 時	時 間	場 所	発表者	参加者数	備 考
第1回	6月14日 (金)	16:40~ 18:00	摂大図書館 ラーニング・コモンズ	8名	13名	テーマは「小説」



マイ・フェイバリット・ブックス



全国大学ビブリオバトル2019
(予選会)

ビブリオバトル 2019

全国大学ビブリオバトル 2019 に出場して

摂南大学 理工学部建築学科 1 年次 森藤 優

私は、「ビブリオバトル」に今回初めて参加しました。「ビブリオバトル」についてなんとなくは知っていましたが、詳しいルールなどは知りませんでした。「ビブリオバトル」で紹介された本は、私が今まで読んだことのない本が多く、人があまり読んでいない本を紹介しなくてはいけないという印象が強かったです。今回、私は最初「ビブリオバトル」に参加することに消極的でした。私は読書が好きです。時間があれば本を読んでいるくらい好きですが、本の面白さを人に伝えることは上手ではありません。元々、人前で話すことが苦手です。ですが、図書館の職員の方や先輩に有名な本でもいいと言われ、人前で話すことへの苦手意識の克服のために参加を決めました。これまで何度も読んだ本でも人前で話すとなると緊張してしまい、地区予選では思ったとおり発表することができませんでした。私も上手な人や、私自身、聞いていて読みたいと思う本があったので、まさか自分の本が「チャンプ本」に選ばれるとは思っていませんでした。選ばれたことの嬉しさより、驚きの方が勝っていました。私でいいのかとも思いましたが、地区予選で話せなかったことをリベンジするチャンスだと思いました。地区決戦の前に図書館職員の方や先輩、同級生に聞いてもらい、アドバイスをいただきました。アドバイスをいただいたおかげで、地区決戦では伝えたいことを伝えきることができました。結果は、予選敗退と悔しいものとなってしまい、代表として出させていたのに申し訳ないと思います。話のまとめ方や聴衆を巻き込むような話術が私に足りなかったのだと他の出場者を見て感じました。多くの人に支えてもらい、多くのことを学ぶことができたことと出させていただけただけに感謝しています。来年、この経験をもとにまた挑戦したいと思います。



※紹介した本「活版印刷三日月堂」ほしおさな(著) ポプラ社(ポプラ文庫) 2016



図書館学生サポーターが薦めるこの1冊

～文庫本編～

「天久鷹央の推理カルテ」シリーズ

知念 実希人(著)
新潮社(新潮文庫nex) 2014



この本はサスペンスが苦手な人に、ぜひ読んでほしい作品です。私も元々サスペンスは苦手なジャンルでしたが、この本はそんな人でも読みやすいと感じるでしょう。これは東京都東久留米市のとある病院が舞台の作品です。天才だが空気が読めず見た目も子供のような天久鷹央、その助手、元空手部で苦学部の小鳥遊(たかなし) 優や、小鳥遊をからかうのが好きな研修医の鴻ノ池舞など、このようなキャラクターが織りなす推理劇はとても魅力的に感じることでしょう。登場する事件も刑事事件からオカルトチックなものまであるので飽きません。

法学部2年次 小原 悠暉

「螢草」

葉室 麟(著)
双葉社(双葉文庫) 2015



この本は武家の家で女中として働く葉々が、武士であった父の無念を晴らし、奉公先の主人を助けるべく奮闘する話です。葉々の人柄で大勢の人が協力してくれます。状況を打開するための葉々の機転とひたむきさに引き込まれていきます。読み終えた後には安堵感に包まれ、涙がこぼれてしまいます。緊張した場面だけでなく、クスッと笑える部分もあるので、時代小説というジャンルを初めて読む人でも読みやすいと思います。

理工学部1年次 森藤 優

「シアター!」

有川 浩(著)
アスキー・メディアワークス
(メディアワークス文庫) 2009



この話は、売れない劇団が2年間で借金300万円を返済していくために一念発起していく物語です。主人公の巧は元いじめられっ子の脚本家。自分が主宰している劇団にプロの声優が入団してから今迄の制作方針を曲げてまで野望(みらい)を持つことを選び、劇団に亀裂が入る…。『金と異性』は人を変える力を持つ事が読み終わった後にわかるはず。ちなみにこの本は続編もあるので興味を持たれた方はぜひ読んで下さい。

経営学部1年次 渡辺 健太郎

「博士の愛した数式」

小川 洋子(著)
新潮社(新潮文庫) 2005



この本は映画にもなっているのを知っている人も多いかもしれません。私がこの本と出会ったのは小学生の時でした。お話には確かに数学の言葉はたくさん出てくるのですが、どれも日常の中にある数字に関することばかりで、小学生の頃の私にも決して難しくなくて、嬉しそうに話す博士の気持ちになって自分も数学者になったような気分になりました。また、お話の中には考えさせられたり、思わず涙が出てしまった場面があるので、純粋な気持ちで本を読んでみたい人には特におすすめしたい本です。

理工学部1年次 溝畠 ひより

図 書 館 利 用 統 計

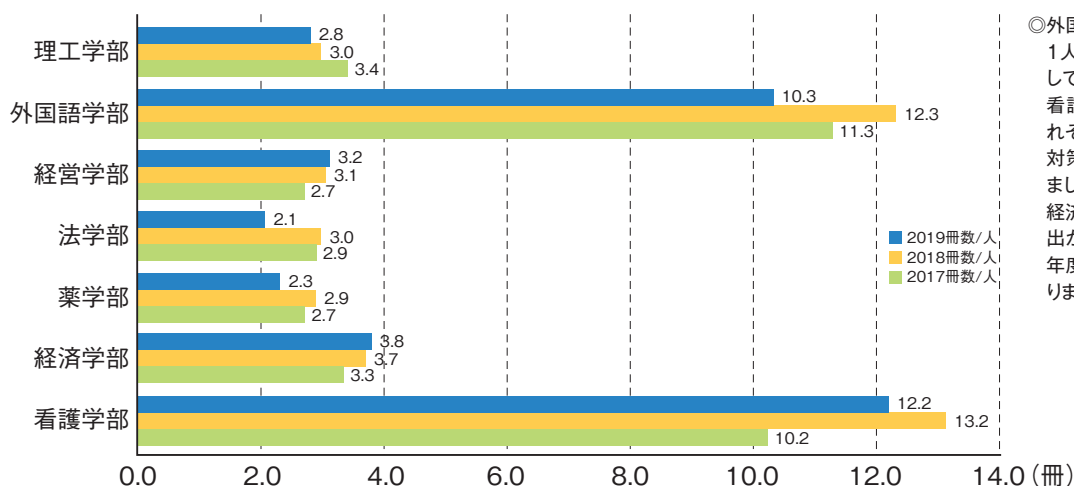
図書館ではより良い図書館運営のために利用状況の調査、アンケートの実施などを行っています。
ここでは、2019年度(1月末まで)の利用状況と、学部別貸出冊数等について報告します。

図書館利用状況 [2019年度(1月末まで)]※2017・2018年度は年間参考]

区 分		本 館	分 館	計
開 館 日 数	2019 年度	236 日	239 日	—
	2018 年度	280 日	286 日	—
	2017 年度	279 日	289 日	—
入 館 者 数	2019 年度	214,646 人	52,419 人	267,065 人
	2018 年度	230,052 人	69,686 人	299,738 人
	2017 年度	235,929 人	74,564 人	310,493 人
貸 出 者 数	2019 年度	17,399 人	4,430 人	21,829 人
	2018 年度	19,170 人	5,743 人	24,913 人
	2017 年度	18,927 人	5,141 人	24,068 人
貸 出 冊 数	2019 年度	33,148 冊	9,863 冊	43,011 冊
	2018 年度	37,838 冊	11,442 冊	49,280 冊
	2017 年度	34,695 冊	10,023 冊	44,718 冊

◎2018年度は、前年度からの入館者数の減少に対し、貸出者数・貸出冊数は増加しました。これはこの年に、学部生等の貸出上限冊数を5冊から10冊に増やしたことが要因の一つと考えられます。また、2019年度は、2018年度と比較すると微増傾向です。図書館では資料の充実、新たなイベントの企画、展示の工夫など、改善を図っています。

学部別1人当たり貸出冊数 [2019年度(1月末まで)]※2017・2018年度は年間参考]



*対象: 学部生・卒研生

◎外国語学部・看護学部は、例年1人当たりの貸出冊数が突出しています。特に2018年度は看護学部の伸びが目立ち、それぞれ、英語の多読資料、試験対策資料などが多く借りられました。そのほか、経営学部・経済学部は課題図書などの貸出が多くあり、1月末時点で前年度の数字を上回る結果となりました。

貸出トップ10 [2019年度(12月末まで)] (本館)

タイトル / 著者 / 出版社	貸出回数
そして、バトンは渡された / 瀬尾まいこ / 文藝春秋	14
ひと / 小野寺史宜 / 祥伝社	11
ある男 = A man / 平野啓一郎 / 文藝春秋	11
妻のトリセツ / 黒川伊保子 / 講談社	10
フーガはユーガ / 伊坂幸太郎 / 実業之日本社	10
ビジュアル流通の基本 / 小林隆一 / 日本経済新聞出版社	9
出会い系サイトで70人と実際に会ってその人に合いそうな本をすすめまくった1年間のこと / 花田菜々子 / 河出書房新社	9
きげんのいいリス / トーン・テレヘン著; 長山さき訳 / 新潮社	9
スバシク実力がつくと評判の常微分方程式キャンパス・ゼミ: 大学の数学がこんなに分かる! 単位なんて楽に取れる! / 馬場敬之 / マセマ出版社	9
インバウンドの消費促進と地域経済活性化: 育て、磨き、輝かせる / 日本交通公社編著 / ぎょうせい	9

◎2019年本屋大賞の大賞受賞作品が1位にランクインしました。『ひと』、『ある男』、『フーガはユーガ』も本屋大賞ノミネート作品であり、同賞の作品は人気の高いことがうかがえます。

このほか、特定の学部学生によく貸出された専門書もランクインしています。



*資格・就職・TOEIC関連本、参考書、リーディングラウンジの本は除く



枚方分館ニュース



枚方分館は、薬学・看護学・農学に関する専門図書を主に揃え、教育・研究を支援する体制を整えています。また、学生の読書習慣を養うため『テーマ別特集展示』、『YOMOCA』に力を注いでいます。さらに、2019年の夏に枚方分館の改修工事を行い、2020年4月の農学部開設に対応しています。

テーマ別 特集展示

学生が興味を示しそうな話題や定番のテーマについての特集展示を実施しています。

薬学部については、バンコクへの海外研修募集に伴う特集展示を行い、旅行・民族・言語(タイ語)などバンコクに関する図書を展示(写真①)しました。第2弾はカリフォルニアへの海外研修募集の特集展示を実施しました。

看護学部については、看護部僧侶玉置妙憂氏の公開講座に関する特集展示(写真②)を実施しました。

定番のテーマとしては摂大文化大賞、選書フェア、環境問題などの特集展示を実施しています。先に紹介した薬学部の海外研修募集やノーベル賞(写真③)も定番の特集展示として定着しつつあります。



写真①



写真②



写真③

6~8月	何ができる?~1秒から10分まで~
6~7月	2019年 本屋大賞
7月	摂大文化大賞にむけて
7~9月	選書フェア2019
9~11月	レオナルド・ダ・ヴィンチ没後500周年
9~11月	薬学部海外研修inバンコク2019
9~2月	本 読もか
10~12月	貸出0ゼロの本 文庫特集
11~12月	環境問題
11~12月	摂南大学院看護学研究科 公開講座2019
11~1月	ノーベル賞
12~2月	貸出0ゼロの本 岩波新書特集①
12~2月	お飲み物はいかがですか?
1~3月	薬学部海外研修2019-2020
3月	マイノリティを考える3

読書ラリー YOMOCA (ヨモカ)

参加者にはポイントカードを配布します。本を期限内に返却、本のブックレビュー(書評)作成、希望図書申請、アンケート提出によりポイントを貯めます。30ポイントを貯めるとYOMOCAオリジナルグッズ(写真)と引き換えができます。



目的

- ①学生の読書習慣を養う!
- ②ブックレビュー作成により、理解力・思考力・表現力を養う!

今年で7年目!
(2014年度スタート)

利用説明会 開催状況

●「医中誌Web」利用講習会

内容: 医学・歯学・薬学・看護学および関連分野の論文情報検索サービスである医中誌 Web の説明と演習
日付: 2019年4月27日(土)・5月6日(月)
場所: 枚方学舎 5号館 情報処理演習室
対象: 看護学部の教員、
1年次院生、3年次学生



●「PLATON」利用説明会

内容: 図書購入システムPLATONの説明
日付: 2019年5月23日(木)、27日(月)
場所: 枚方学舎 5号館 情報処理演習室
対象: 薬学部・看護学部の教員

選書フェア

2019年7月1日(月)から5日(金)まで、薬学、看護、医学、生命科学系を中心に学術書を約600冊展示して選書フェアを開催しました。

なお、この希望図書は、協力いただいた参加者への報告を兼ねて「選書フェア」の特集展示で公開しました。



枚方分館 改修工事

2020年4月農学部開設に伴い、2019年7月初旬から9月初旬にかけて枚方分館の改修工事を実施しました。夏休み期間の工事となりましたが、次のように書架が組み立てられていきました。このような光景を見る機会はありません。



書架の骨組み組み立て①



書架の木枠取り付け



書架の骨組み組み立て②



書架の棚板取り付け

完成

2階の工事は、普通図書ゾーンへの書架増設と既存書架の組替え、学術雑誌ゾーンへの雑誌書架増設、事務室に隣接する図書整理用の書架設置とエリア設置(写真①)、リーディングゾーンへの低書架設置(写真②)を実施しました。それに伴い、閲覧用座席は奥にあるリーディングゾーンへ可能な限り集約して配置(写真②)しました。また、OPAC検索用端末5台とデータベース検索用のパソコン4台は、限られたスペースを有効活用するため、立ったまま操作できる机上に集約(写真③)しました。1階の工事は、保存書庫2の拡張工事、書架増設、既存書架の組替えを実施(写真④)しました。



写真①



写真②



写真③



写真④

今回の工事で図書館枚方分館は可能な限り書架を増設しましたので、薬学部・看護学部・農学部の協力のもと、限られた収容能力を活かした最適な蔵書構成の図書館を目指します。

2019年度 図書館利用者アンケート結果

図書館では、皆様の利用状況をはじめ、図書資料やサービス業務および諸活動に対する意識やご意見などを調査し、図書館業務の改善に役立てるため、毎年利用者アンケートを実施しています。

今年度は、昨年の11月1日（金）から20日（水）までの間、図書館内でのアンケート用紙記入、および図書館のポータルサイトでのWeb回答の2つの方法で実施しました。皆様にはご協力いただき御礼申し上げます。

この度、アンケートの集計結果がまとまりましたので、前年度との比較なども交え、主な項目について結果をお知らせします。



1. 回答者数

454人（前年度：360人）内ポータルサイト：87人（前年度：62人）
【本館】356人（昨年度：281人） 【分館】98人（昨年度：79人）

2. アンケート集計

(1) 図書館をどの程度利用していますか。

本館	選 択 肢	教職員	院・学部生他	その他	計(人)	比率(%)	前年度(%)
	ほぼ毎日	0	64	5	69	19.4	14.0
	週に2～3日程度	2	121	7	130	36.5	40.9
	週に1日程度	1	86	4	91	25.6	25.4
	月に2～3日程度	0	24	2	26	7.3	7.2
	月に1日程度	0	17	0	17	4.8	2.5
	試験期間のみ	0	9	0	9	2.5	4.7
	ほとんど利用しない	0	8	1	9	2.5	5.0
分館	その他（記入なし）	0	3	2	5	1.4	0.3
	選 択 肢	教職員	院・学部生他	その他	計(人)	比率(%)	前年度(%)
	ほぼ毎日	1	3	0	4	4.1	15.2
	週に2～3日程度	1	11	1	13	13.3	19.0
	週に1日程度	3	9	0	12	12.2	19.0
	月に2～3日程度	1	9	0	10	10.2	12.7
	月に1日程度	5	7	0	12	12.2	6.3
	試験期間のみ	0	19	0	19	19.4	21.5
	ほとんど利用しない	4	21	0	25	25.5	6.3
	その他（記入なし）	0	3	0	3	3.1	0.0

- 本館では、前年度に比べ「ほぼ毎日」という回答者が少し増加し、「週に2～3日程度」という回答者の割合がやや減っています。
- しかし、本館全体では回答者の半数以上が「ほぼ毎日」や「週に2～3日程度」利用すると回答しているように比較的高い頻度で図書館を利用していることがわかります。
- 分館では、前年度に比べ「ほぼ毎日」の割合が大きく減少したことをはじめ、「週に2～3日程度」、「週に1日程度」、「月に2～3日程度」という回答者の割合も少し減少しています。
- 一方で、「月に1日程度」と「ほとんど利用しない」の回答者の割合が増加しています。前年度とはほぼ同じ割合で推移している「試験期間のみ」と合わせ、今回の分館における特徴になっています。
- これは枚方校地では、図書館以外に自習室が整備されていることや昨夏枚方分館で実施した図書館内の改装工事などが影響しているかも知れません。

(2) 図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思いますか。〈複数回答〉

【本館】回答者数：356人

項 目	回答数	比率(%)	前年度(%)
専門図書	152	42.7	38.6
文庫本・新書本	124	34.8	31.0
教養図書	123	34.6	31.8
参考図書	64	18.0	19.1
一般雑誌	49	13.8	17.0
資格取得関連図書	43	12.1	17.7
視聴覚資料	42	11.8	7.2
電子ブック	41	11.5	7.9
データベース	30	8.4	6.9
外国学術雑誌	23	6.5	4.3
新聞	21	5.9	9.0
シラバス掲載図書	18	5.1	6.1
電子ジャーナル	18	5.1	4.7
国内学術雑誌	16	4.5	5.4
その他	11	3.1	1.1

【分館】回答者数：94人

項 目	回答数	比率(%)	前年度(%)
専門図書	59	62.8	60.3
教養図書	40	42.6	39.7
文庫本・新書本	24	25.5	11.5
参考図書	20	21.3	24.4
電子ジャーナル	17	18.1	9.0
一般雑誌	15	16.0	17.9
国内学術雑誌	12	12.8	9.0
外国学術雑誌	10	10.6	6.4
電子ブック	9	9.6	12.8
シラバス掲載図書	7	7.4	9.0
視聴覚資料	5	5.3	6.4
資格取得関連図書	5	5.3	2.6
データベース	4	4.3	6.4
新聞	2	2.1	1.3
その他	1	1.1	0.0

- 本館、分館に共通して、「専門図書」の資料充実を望む割合が非常に高いことがわかります。
- また、「文庫本・新書本」の充実を望む回答が多いですが、とくに分館では前年度に比べ14ポイント、「電子ジャーナル」についても9ポイント増加しているのが特徴的です。
- 本館では「視聴覚資料」と「電子ブック」の割合が少し増加していますが、分館では、逆に少し減少しています。

(3) 図書館の環境についてどう思われますか。

良い：3点、普通：2点、悪い：1点として平均点を算出しました。

項 目	本 館	前年度	分 館	前年度
資料の配置	2.6	2.5	2.3	2.5
閲覧席	2.5	2.6	2.3	2.5
案内表示	2.5	2.5	2.3	2.4
静寂性	2.4	2.4	2.3	2.4
視聴覚設備	2.5	2.4	2.1	2.3
パソコン設備	2.4	2.3	2.1	2.3
ラーニング・commons(本館のみ)	2.5	2.5	2.2	2.3
環境全般	2.5	2.5	2.3	2.5

- 図書館環境全般では、本館はほぼ前年同様の良好な評価です。分館はやや評価を下げてはいますが、ほぼ良好な評価を得ています。
- 分館では、農学部開設を控え、書架の増設や配置換えなどを行いました。その後の11月にこのアンケート調査を実施していることから、利用者にとって不慣れな環境変化が評価に影響したとも考えられます。
- 今後も学習の場と資料や情報を提供する図書館として、より良い環境に整えられるよう努力を続けます。

(4) 図書館の企画展示(特定のテーマの図書の展示)についてどう思いますか。

項 目	本館比率(%)	分館比率(%)
関心(興味)がある	41.7	35.4
あまり関心(興味)はない	46.3	61.5
企画展示は見たことがない	12.0	3.1

- 本館については、前年度より「関心(興味)がある」が9ポイント増加しましたが、本館・分館ともに半数以上が「あまり関心(興味)はない」、「企画展示を見たことがない」という回答で、少し残念な結果です。
- 図書館では、企画内容や時期、関係資料の展示方法など、さらに工夫する必要があると思っています。

(5) 図書館イベント活動等についてご記入ください。

a:関心(興味)がある、b:あまり関心(興味)はない、c:知らない

項 目	本館 比率(%)			分館 比率(%)		
	a	b	c	a	b	c
摂大文化大賞	10.5	56.9	32.6	6.3	45.3	48.4
ビブリオバトル	11.9	62.2	25.9	9.5	32.6	57.9
マイ・フェイバリット・ブックス	10.2	45.8	44.0	11.6	26.3	62.1
選書フェア	30.8	42.1	27.1	24.2	30.5	45.3
図書館学生サポーター活動	8.2	51.2	40.6	7.5	26.9	65.6
読書ラリーYOMOCA(枚方分館のみ)	1.1	35.3	63.6	19.6	32.0	48.4

- 図書館イベント活動等では、「あまり関心(興味)はない」と「知らない」という回答の比率が高いため、今後は活動内容や情報の発信方法などを一層工夫する必要があると思っています。
- しかし、それぞれのイベントに参加している学生の皆さんは、とても生き生きと活動しています。ご自分の想像力や表現力を試す場として一度チャレンジしてみたいかがでしょう。

(6) 図書館のお知らせやサービス内容を主に何で知りますか。〈複数回答〉

【回答者数】本館:356人、分館:94人

項 目	本館回答数	比率(%)	前年度(%)	分館回答数	比率(%)	前年度(%)
ホームページ	127	35.7	33.5	25	26.6	33.8
Library Guide[冊子]	7	2.0	2.2	1	1.1	1.3
館内のパンフレット	23	6.5	4.1	7	7.4	5.2
館内の掲示	153	43.0	32.0	39	41.5	48.1
館外の掲示	65	18.3	6.3	18	19.1	16.9
図書館スタッフ	11	3.1	0.7	9	9.6	10.4
友人	23	6.5	8.2	6	6.4	10.4
その他	17	4.8	0.4	13	13.8	1.3

- 図書の案内やサービス情報について、本館・分館ともに多くの人がホームページや図書館内外の掲示物から得ていることがわかります。
- とくに本館では、館外掲示物による案内を多くした効果が集計の結果に表れており、昨年に比べ増加しています。
- これ以外にも、図書館では学生ポータルメールを利用し、図書館情報や案内を随時発信しています。常にチェックし、興味ある案内や情報がありましたら図書館へお立ち寄りください。

(7) 次の目的で図書館を利用する場合、利用環境はどうですか。

良い：3点、普通：2点、悪い：1点として平均点を算出しました。

項 目	本館	前年度	分館	前年度
レポート作成	2.4	2.5	2.2	2.5
自学、自習	2.7	2.7	2.5	2.6
グループ学習	2.4	2.5	1.7	1.7
図書閲覧	2.6	2.5	2.4	2.6
雑誌・新聞閲覧	2.5	2.4	2.3	2.5
視聴覚資料鑑賞	2.4	2.4	2.0	2.2

- 本館では、前年度と同じ評価の「自学、自習」を筆頭に「図書閲覧」とつづき全般的に各項目とも比較的良好な評価を得ています。
- 分館では、前年度に比べ全般的に少し評価が下がりましたがほぼ良好な評価になっています。前年度と同じ評価の「グループ学習」については、分館にラーニング・commonsなど、討論可能な学習スペースがないことが影響していると思われます。

(8) 図書館スタッフの対応についてどう思われますか。

	良い(%)	普通(%)	悪い(%)
本 館	71.8	27.0	1.2
分 館	50.0	48.0	2.0

- 本館・分館ともに、「良い」と「普通」がほとんどの利用者からの回答を占め、良好な評価を得ました。今後も引き続き図書館サービスの向上に努めてまいります。

図書館運営委員の先生方に「学生時代に読んで欲しい本」をテーマに推薦図書を紹介していただきました。

『都市をたたむ：人口減少時代をデザインする都市計画』 饗庭伸[著] 花伝社 2015年

理工学部 教授 平田 陽子



人口減少の時代にこれからの都市をどのようにデザインしていくのかを考えるための本である。筆者はコンパクトシティのような居住地を都市中心部へ集めるような労力をかける方法よりも、都市の中にできる空き家という隙間を公共の場として作っていく（筆者はスポンジシティと呼んでいる）方がより良い都市計画になるのではないかと提起している。いわば、都市とそうではない地区が混在する空間が生じるが、その強みはなんだろうかと考えさせている。これからの人口減少を踏まえて、どのような街を作っていくのかという議論を行うにはもってこいの本だと思う。

『タイム・マシン 他九篇』 H.G.ウエルズ[著] 橋本横矩[訳] 岩波文庫(岩波書店) 1991年

外国語学部 教授 橋本 正俊



授業にもスマホのゲームにも疲れた皆さん、少しの時間、SFの世界にひたって頭をリフレッシュしませんか。紹介するのは、SFの父とも呼ばれるイギリスの作家、ウエルズ(1866-1946)です。その魅力は、ただ面白いだけでなく、人間の歴史を、社会を我々に見つめ直させるところにあります。本書には不朽の名作『タイム・マシン』を含む短編が10編収められていて、どれでも気楽に読めます。これがなかったら、『ドラえもん』だって誕生していなかったかも。そのままどっぷりSFの世界にはまってしまうたら、もうもとの自分には戻れませんよ。

『青が散る』 宮本輝[著] 文春文庫(文藝春秋) 1985年

経営学部 准教授 杉本 篤信



燎平を主人公とした大阪の新設私立大学での4年間にわたる青春小説である。大学生生活の当初、彼の「心にあるのは愚痴だけであった。行きたかった京都の大学に合格していたら、もっと金持ちの息子だったら、もっと男らしい肉体と風貌を持っていたら、他の何物も踏みしだいて、一直線に幕進できる目標さえあれば。」それでも強引に友人に誘われたテニス部でグラウンド作りから始め、やがてテニスが彼の生きる糧になる。緑色に光を宿した瞳の夏子に振り回され続けた4年間も最後には乗り越えるほど成長できるのだ。愚痴に共感できた人なら、大学時代にこそ読んで欲しい一冊である。

『知らない恥をかく世界の大問題 9』 池上彰[著] 角川新書(KADOKAWA) 2018年

法学部 教授 小島 俊朗



本書は、分かり易い解説で定評のある池上彰氏の「知ら恥」シリーズ最新作である。その内容は、副題の「分断を生み出す1強政治」が端的に示している。世界最強の経済力・軍事力を有する米国にトランプ大統領が自国ファーストを掲げて登場したことで、米国にとどまらず世界の指導者の独裁化が進んでいる。その結果、世界には深刻な混乱と対立が生じている。本書はその対立の構図を明快に解説している。世界の潮流が大きく変化する中で、その現状に目を向けることは、これから生きる学生諸君にとって必須ではないだろうか。

『マンガでわかる! 頭を鍛える東大ノート術』 太田あや[著] 宝島社 2018年

経済学部 准教授 名方 佳寿子



授業を受ける際に「ノート」を取るが、その理由・目的について考えたことはあるでしょうか。「先生に言われたから」「何となく」が多いのではないのでしょうか。この本は、「ノートを取ることに目的があること」「ノートをうまく活用すれば目的を達成できたり、自分の人生を変えることができること」「ノートを取る技術は社会に出て大いに役立つこと」を漫画でわかりやすく説明しています。パソコン、スマホが普及しノートを取らない学生が増えているなか、「ノート」を取ることの大切さを学んでほしいと思います。

『動的平衡 生命はなぜそこに宿るのか』 福岡伸一[著] 小学館新書(小学館) 2017年

薬学部 教授 伊藤 潔



生命とは何か? それは「動的平衡」にあるもの、と著者はいいます。動的平衡とは、合成と分解、酸化と還元、切断と結合など相矛盾する逆反応が絶えず繰り返されることによって、秩序が維持され、更新されている状況を意味し、生物学分野で使われることが多いかも知れません。ところで、「行く河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。・・・、またかくのごとし」の一節、ご存じですね。通読したのは大学卒業後でしたが、今も好きです。歳のせい、か、古典や宗教の記述が科学に重なることがあります。生物に興味がないあなたも、今の体は昨日のとはかなり変わっていますよ。動的平衡ですから。動的平衡を発見してください。

『こころの処方箋』 河合隼雄[著] 新潮文庫(新潮社) 1998年

教職支援センター 講師 谷口 雄一



目次を開くと、初めの「人の心などわかるはずがない」から最後の「全ての人が創造性を持っている」まで全55章にわたって書名の通り「心の処方箋」として河合隼雄先生の言葉が綴られています。どの章も4頁で構成され、「それでいいんだよ」と寄り添ってくれているかのような河合先生の言葉が、私達の心を温かく包み込んでくれます。また、時には、既成概念を根底から崩してしまうほど批判的に指摘してくれます。ですが、その全てに河合先生の優しさを感じることができます。常に心の傍においておきたい「心の処方箋」がたくさん詰まった一冊です。

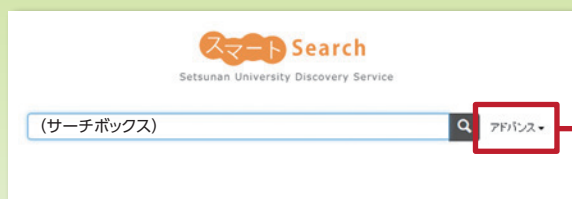
サービスの紹介

図書館情報システムは、2018年3月にリニューアルしました。そのなかのひとつである資料検索機能の便利な使い方や、学外からもアクセス可能な電子ブックの利用について簡単にご紹介します。

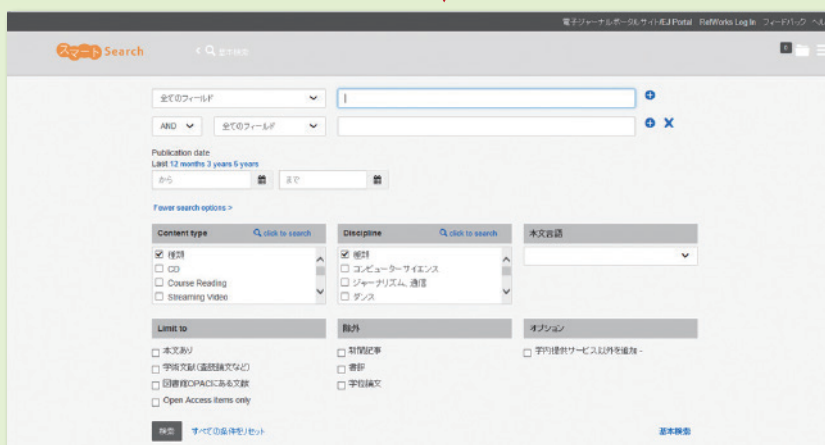
「検索達人」を目指して、より良い学習・研究の成果につなげられるよう、図書館でも応援します。

Summon「スマートSearch」

「スマートSearch」は、サーチボックスにキーワードを入力するだけで、図書館の所蔵資料、電子ジャーナル、機関リポジトリ、オープンアクセス誌を簡単に探し出すことを可能にした新しいサービスです。「どのデータベースを使えばいいかわからない」「とりあえず論文を探したい」、こんな時にお薦めです。



詳細検索画面へ



Maruzen eBook Library

学術情報に特化した電子書籍を提供する、学術・研究機関向け電子書籍配信サービスです。研究・学習でのご利用に便利な検索・閲覧機能が充実しています。

リモートアクセスの利用登録をすると、学内に限らず、自宅や外出先など、いつでもどこからでも自由にアクセスすることが可能になります。



2019年度「摂大文化大賞」入賞作品発表!!

図書館では毎年、学生の文化的創作意欲を奨励するため「摂大文化大賞」を設け作品を募集し、優秀な作品を表彰しています。今年度も4部門にわたり21点の作品応募がありました。厳正な審査の結果、大賞には小串祥子さんの映像作品「47の風景」が選ばれました。そのほか下記9作品が受賞しました。表彰式は12月12日(木)、図書館本館ラーニング・コモンズで行われ、受賞者には福島図書館長から表彰状と副賞が授与されました。

部 門	賞	作 品 名	作者(所属・学年・氏名)
 大 賞		47の風景	理工学研究科生命科学専攻2年次 小串 祥子
文 芸	優秀賞	大切な人たちへ	国際交流センター短期留学生 葛 妍
美術・工芸	優秀賞	星の森	理工学部機械工学科3年次 山本 峻太
	準優秀賞	ハンバーガー	理工学部住環境デザイン学科1年次 安見 友希
写 真	優秀賞	彩雲孔雀千輪	理工学部住環境デザイン学科2年次 長谷川ルウ
	準優秀賞	水宙	外国語学部外国語学科3年次 部谷 知之
審査員特別賞		照らす"もの"	理工学部機械工学科2年次 清水 唯
奨励賞		星のお友だち	外国語学部外国語学科1年次 谷口菜々美
奨励賞		学生の学生による学生のための図書館	外国語学部外国語学科3年次 堀江 宗平
奨励賞		青	理工学部生命科学科2年次 田中 飛優



大賞
【47の風景】



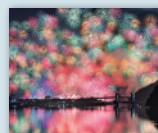
文芸部門 優秀賞
【大切な人たちへ】



美術・工芸部門 優秀賞
【星の森】



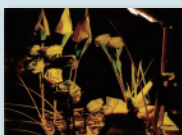
美術・工芸部門 準優秀賞
【ハンバーガー】



写真部門 優秀賞
【彩雲孔雀千輪】



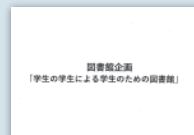
写真部門 準優秀賞
【水宙】



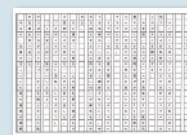
審査員特別賞
【照らす"もの"】



奨励賞
【星のお友だち】



奨励賞
【学生の学生による学生のための図書館】



奨励賞
【青】



大賞受賞記念撮影



表彰式後の記念撮影

<編集後記> 例年、図書館利用者アンケートには多くの方々にご協力をいただいております。この場をお借りしまして御礼申し上げます。アンケートに書かれたご意見の中にはすぐには解決できないものなどございましたが、図書館員一同、4月の農学部開設を迎えたこともあり、いただいたご意見を真摯に受け止め、さらに利用者サービス向上に努めていきたい、と考えております。引き続き、皆様の温かいご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

Smart and Human
摂南大学



「学而」 摂南大学図書館報 No.101 2020.3

本 館 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8 TEL.(072)839-9111

分 館 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1 TEL.(072)866-3102

URL: <http://www.setsunan.ac.jp>